

がっこう ろうどくかっどう
学校で朗読活動を
つづける

ヒロコ・ムトーさん(64歳)



いじめをなくそうと、自宅がある神奈川県を中心に全国の小中高校を訪ね、朗読活動を続けています。今年三月、神奈川県「2009年度ボランティア活動奨励賞」を受賞しました。

エッセイストでミュージカル作家。一九七六年に夫の海外勤務でアメリカに渡り、三年後に帰国した後、二人の娘が小中学校でいじめを受けました。「人はみんなちがうはずなのにどうして同じことをするよう求められるの」。娘たちがもがき苦しんだ末にのり越えた体験を、形にしたいと考え続けてきました。

転機は二〇〇六年。八十八歳で紙人形作家としてデ

ビューした母親が九十三歳で亡くなったこと。「体が不自由になっても紙人形を作り続けた母と、いじめをのり越えた娘たちの力強さを詩にたくし、生きることのすばらしさを伝えたい」

〇七年、『心の宅急便』と名づけた朗読活動を三人の友人と始めました。

「友達にならない？ いつか君は言ってくれた『いいよ』サラリと答えなければどうれしかったんだ：」。ある少女にもらった絵手紙をもとに自身が作った詩を、ハーブの演奏を交えて語ります。「前向きになれた」など、届いたメッセージは九千通以上。特にうれしいのは「ただ見ているのは自分がいじめをしたことと同じだと気づいた」という内容の手紙。

「心を伝えれば心が返ってくる。ひとりでいる子に勇気をもって話しかけて。友だちにならない？って」

朗読の申し込みは『心の宅急便』のウェブサイトから。(文・写真 森島 龍)